

Adobe illustratorを使う場合

【※】Adobe illustrator(以下「イラレ」)はロゴデザインや印刷物に用いられるソフトで、このパンフレットもイラレで作成しています。ここでは、イラレを使用したワッペン原稿作成のコツを紹介いたします。イラレを使える人向け情報であり、サポートは行っていませんのでご了承ください。(中の人あまり詳しくないので…)

【1】手書きの要領で下書き

クリスタと同様に、P6の要領でイメージの書き出し、簡単な下書きを作成し、あらかじめ刺繍できる線の太さや文字の大きさを把握します。

【2】新規作成

A4サイズなど任意の大きさを新規作成します。カラーモードは「CMYK」で設定しておくのが無難です(印刷物にも対応)。

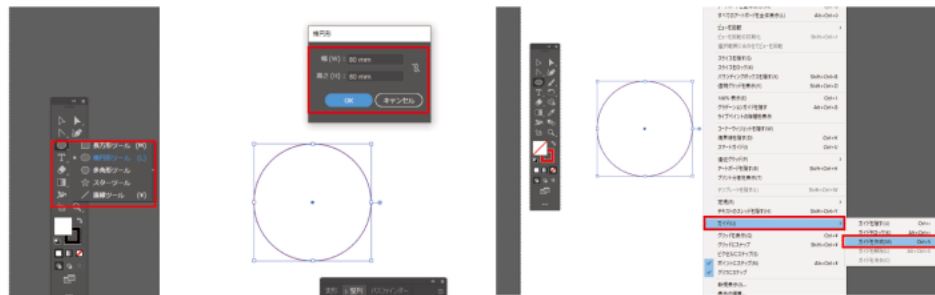
【3】ガイドの設定

刺繍パッチのデザインの基本は、**大きさを決め、実寸でデザインすること**にあります。「ガイド」を作り、中に図案を収めることで、実寸で作画できます。

(作例は円形80mmの場合)

「長方形ツール」「楕円形ツール」を使い、寸法入力で線が設定されていないオブジェクトを作成。「ガイドを作成」で水色のガイドに変換します。

ガイドは整列ツールで中央に寄せ、動かないようレイヤーパレットでロックします。



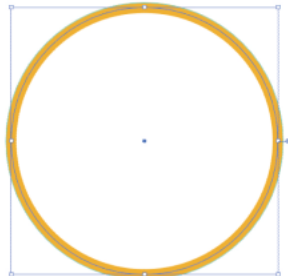
デザインデータを刺繍パッチのみに使う場合は、印刷に必要なトリムマーク(トンボ)を設定する必要はありません。

【4】パッチのフチの設定

「長方形ツール」「楕円形ツール」などを活用し、パッチの切り出し処理に必要な3mm幅のフチを設定します。

円形、四角形などの形の場合、「作りたいサイズ-3mm」を入力することで、ちょうどよい大きさに収まります(作例は80mm-3mm=77mm)。

なお、角型のパッチのフチは、角を2mm以上丸めるようにしてください。



【5】図形の描画

各ツールを利用し模様を作ります。各所の線の太さ(基本1mm、最低0.7mm)を確保できるように注意してください。グラデーションはできるだけ使わないようにしてください。刺繍系で再現するため、模様が荒くなります。



【6】文字の描画

文字の描画も細い箇所が1mm(最低0.7mm)を確保できるようにしてください。

円形の文字の配置は「パス上文字ツール」を活用すると便利です。

【7】アウトライン化

出来上がったデータを保存したら「別名で保存」し、文字のアウトライン化を行います。アウトライン化されていない場合、他のPCでデータを開いた時に「文字化け」することがあります。

刺繍パッチに関しては、JPEGで出力した原稿データを提出される場合は、その限りではありません。



【参考】完成したデータ

直径80mmで作成した参考データ(実寸)です。作りながら図案の大きさを調整したり、文字などを追加して仕上げました。

